

# The 71th WASEDA vs KEIO Basketball Game

早稲田大学

## BIG BEARS

慶應義塾大学

## UNICORNS

# 早慶

Time Table

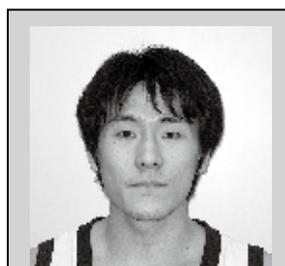
- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 09:00~ 開場                | 10:30~ OG戦 (7分スルー4Q)    |
| 09:15~ 男子Bチーム戦 (7分4Q)    | 12:30~ 開会式 (選手整列、エール交換) |
| 11:30~ OB戦 (7分スルー4Q)     | 14:50~ 男子戦 (10分4Q)      |
| 13:00~ 女子戦 (10分4Q)       |                         |
| 15:30~ 閉会式 (選手整列、優勝校表彰等) |                         |

第71回早慶バスケットボール定期戦  
2013  
WK  
6.8.SAT



部長 大谷 俊郎 | 監督 福島 朗太 | H・コーチ 佐々木三男 | A・コーチ 鈴木 惇志 | トレーナー 山木 伸允 | A・トレーナー 春本 龍彬 | 主務 永井 賢人 | 学生コーチ 成瀬 啓祐

慶應義塾大学 看護医療学部教授 | 慶應義塾大学 環境情報学部教授 | 日本体育大学 | 慶應義塾大学 | 早稲田大学 | 慶應義塾大学 | 慶應義塾湘南藤沢 経4 | 慶應義塾 NY 学院 経4



蛭名 涼

法 4

- ① G ② 180 ③ 80
④ A ⑤ 1990/9/4

⑥ 洛南
⑦ 様々な人の想いを背負い、体を張って勝ちきります。



田中 貴啓

環境情報 4

- ① G ② 179 ③ 70
④ A ⑤ 1991/9/23

⑥ 福岡大附属大濠
⑦ 勝つために自分の役割を考え、それに全力を注ぎます。



大木 峻介

経済 4

- ① G ② 186 ③ 78
④ B ⑤ 1989/10/20

⑥ 慶應義塾志木
⑦ 時ぞ今!

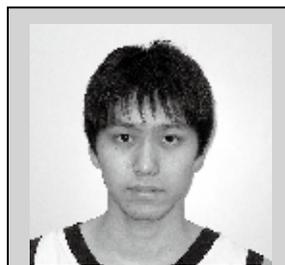


本橋 祐典

環境情報 4

- ① C ② 195 ③ 100
④ O ⑤ 1992/1/11

⑥ 佼成学園
⑦ 今年は絶対に勝ちます!



長命 祐樹

経済 4

- ① F ② 185 ③ 78
④ ⑤ 1991/11/1

⑥ 慶應義塾
⑦ 集大成。絶対に負けない戦いがここにある。

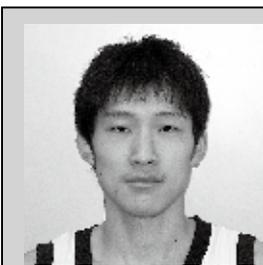


平石 健斗

環境情報 4

- ① G ② 178 ③ 75
④ A ⑤ 1991/4/21

⑥ 慶應義塾
⑦ 全てはこの時のために。



矢嶋 瞭

総合政策 4

- ① F ② 187 ③ 78
④ O ⑤ 1991/5/29

⑥ 福岡大附属大濠
⑦ 皆に感動を与える。



権田 隆人

法 3

- ① F ② 190 ③ 84
④ AB ⑤ 1992/11/30

⑥ 慶應義塾
⑦ 入学してから未だに果たせぬ早慶戦優勝。今年こそは必ず勝利致します。

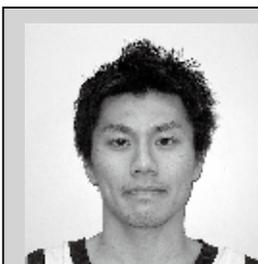


中村 滉平

理工 3

- ① F ② 184 ③ 91
④ O ⑤ 1992/4/2

⑥ 慶應義塾
⑦ 自分の仕事であるリバウンドとディフェンスを全力で頑張ります。



吉川 治瑛

環境情報 3

- ① G ② 183 ③ 76
④ O ⑤ 1992/8/9

⑥ 世田谷学園
⑦ 三度目の正直、必ず勝利を掴み取ります。



大元 孝文

環境情報 2

- ① G ② 180 ③ 70
④ B ⑤ 1995/7/31

⑥ 洛南
⑦ 全力で勝利に貢献します。

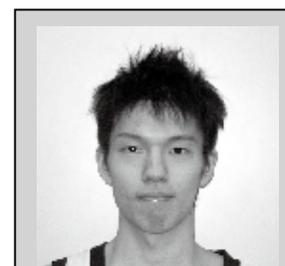


清家 智

経済 2

- ① F ② 186 ③ 78
④ B ⑤ 1993/4/26

⑥ 慶應義塾
⑦ 絶対に勝つ。



伊藤 良太

環境情報 3

- ① PG ② 178 ③ 75
④ O ⑤ 1992/7/23

⑥ 洛南
⑦ 勝利に貢献、バスケットの楽しさが伝わる試合にしたいです!

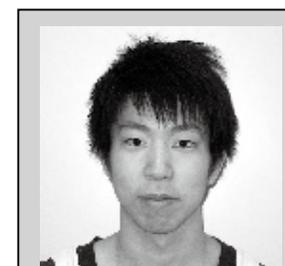


中島 一樹

総合政策 2

- ① PG ② 169 ③ 67
④ O ⑤ 1993/5/1

⑥ 県立高崎
⑦ チームの勝利に貢献できるよう、頑張ります!



福元 直人

環境情報 2

- ① PG ② 185 ③ 78
④ A ⑤ 1993/4/10

⑥ 福岡大附属大濠
⑦ 昨年の苦い経験を活かし、ガードとして勝つためにチームを引っ張ります。



真木 達

環境情報 2

- ① G ② 182 ③ 72
④ A ⑤ 1993/7/27

⑥ 國學院久我山
⑦ 今年は絶対に勝つ!



部長 監督 ヘッドコーチ Aコーチ 主務 副務 学生トレーナー  
 大谷 俊郎 斎藤 哲也 立花 雅男 美川 牧子 玉橋 美咲 吉次真秀子 陣内 美穂  
 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 県立三条商・3 慶應義塾湘南藤沢法政・2 慶應義塾湘南藤沢商・2



**森下 綾**  
 総政 4  
 ① C ② 168 ③ B  
 ④ 1991.04.13  
 ⑤ 慶應義塾湘南藤沢  
 ⑥ 「あ」とは「や」るだけ!



**軽部 陽子**  
 法政 3  
 ① G ② 158 ③ B  
 ④ 1992.11.23  
 ⑤ 県立柏陽  
 ⑥ 「か」んしゃの心! 「る」一歩にならず 「べ」すとなプレイ!



**玉橋 美咲**  
 商 3  
 ① G ② 158 ③ A  
 ④ 1992.07.19  
 ⑤ 県立三条  
 ⑥ 「み」ずからチームに勢いを与え「さ」いごの瞬間まで「き」もちを切らさず闘います!



**大浦 由梨佳**  
 商 3  
 ① C ② 165 ③ A  
 ④ 1992.07.22  
 ⑤ 大妻多摩  
 ⑥ 「ゆ」めの舞台、代々木で「り」りしく逞しく勇ましく「か」く別の思いを今ここに!



**虎岩 里佳**  
 商 2  
 ① F ② 160 ③ AB  
 ④ 1993.08.18  
 ⑤ 慶應義塾女子  
 ⑥ 「と」にかく「ら」す時まで走りきります「い」つまでも感謝の気持ちを「わ」すれませぬ



**酒井 亜弥**  
 看護 2  
 ① F ② 160 ③ O  
 ④ 1992.12.20  
 ⑤ 愛知淑徳  
 ⑥ 「あ」きらめないで「や」りきります!



**遠藤 真央香**  
 理工 2  
 ① F ② 160 ③ AB  
 ④ 1994.02.26  
 ⑤ 県立横浜平沼  
 ⑥ 「ま」わりの応援「お」おきな声援「か」んしゃの気持ちを体現します



**周東 彩菜**  
 文 2  
 ① G ② 158 ③ A  
 ④ 1993.05.10  
 ⑤ 都立日比谷  
 ⑥ 「あ」せらず「や」ってきたことを「な」しとげます

※ ①ポジション ②身長 ③血液型 ④生年月日 ⑤出身校 ⑥自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)



**野尻 友里香**  
 経済 2  
 ① G ② 158 ③ A  
 ④ 1994.03.05  
 ⑤ 慶應義塾女子  
 ⑥ 「ゆ」うきのある「り」っぱなプレーで「か」んどう運びます



**中村 実里**  
 文 1  
 ① G ② 168 ③ A  
 ④ 1994.01.27  
 ⑤ 八雲学園  
 ⑥ 「み」なさんと「さ」いごまで「と」もに戦います!



**石原 早織**  
 経済 1  
 ① C ② 163 ③ A  
 ④ 1994.04.18  
 ⑤ 都立日比谷  
 ⑥ 「さ」い限なく元気に「お」う盛に「り」き走ります!



※ ①ポジション ②身長 ③血液型 ④生年月日 ⑤出身校 ⑥自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)



氏名	学部・学年	P	身長	体重	血液型	生年月日	出身校	自己アピール
いしわた 悠真	商 4	志木高 コーチ	182	72	B	1991/11/21	慶應義塾志木	今年こそ勝ちましょう！
さが 僚	文 4	学連様学生 トレーナー	163	62	B	1990/6/20	県立秋田	絶対勝つ！
あきだ 祐伍	経 済 3	副務	180	71	B	1992/12/18	慶應義塾湘南 藤沢	日本で一番良い試合を！！
どひ 琢史	経 済 3	PG	175	63	B	1992/9/8	慶應義塾湘南 藤沢	自分の全てを、早慶戦にぶつけます。
まつむら 直樹	法 3	学生 コーチ	176	66	O	1992/12/19	慶應義塾	全ての人に感謝を、慶應には勝利を。
やしやま 太郎	商 3	学生トレ ナー	178	77	O	1992/7/1	慶應義塾湘南 藤沢	正直勝ちたい！！勝つ勝つ勝つ！
くわはら 竜馬	経 済 2	G	178	72	A	1993/5/20	県立厚木東	チームの勝利のために全力を尽くします。
たなべ 夏彦	経 済 2	F	188	73	B	1993/9/21	慶應義塾湘南 藤沢	声で会場を沸かせます。
つのだ 侑大華	商 2	G	178	70	B	1993/9/30	慶應義塾	そう！カギとなるのは走・攻・守！
ひらやま 浩樹	法 2	G	179	67	B	1993/6/2	都立西	チームの勝利に貢献します！
しばた 篤志	経 済 2	志木高 コーチ	173	65	A	1993/11/30	慶應義塾志木	持っている力は全て出し尽くします！
かねこ 熙	環境情報 1	F	182	70	A	1994/4/28	県立鶴丸	チームの力になれるよう頑張ります。
こんと 慎平	商 1	G	177	68	O	1994/1/7	慶應義塾NY 学院	常に全力。少しでもチームに貢献できるように頑張ります！
ごとう 宏太	環境情報 1	G	176	68	A	1994/10/18	藤枝明誠	どんな場面でも求められてるもの以上のプレーでチームに貢献します。
はりやま 朋泰	総合政策 1	G	173	69	A	1993/4/22	桐蔭	全力で頑張ります！！
まつおか 祐介	経 済 1	G	168	63	A	1994/6/17	慶應義塾湘南 藤沢	頑張りますので宜しくお願いします。
まるいわ 伴彬	経 済 1	G	180	75	B	1994/3/11	都立富士	チームの力になれるよう声出しから一生懸命頑張ります。



# 時ぞ今 慶應

2012年シーズンの本塾は、1年を通して不完全燃焼に終わってしまった。

トーナメントではベスト16の壁を越えられず。二部リーグで迎えた秋季リーグ戦では、八位と低迷。残留はしたものの、3部との入替戦に廻るといふ屈辱を味わう事となってしまった。

そして、6月の慶早戦では、前半をリードして終えながらも、後半に失速し接戦の末に惜しくも敗北。昨シーズンの主要三大会全て

で結果を残す事が出来ないと言う、屈辱のシーズンを送る事となった。

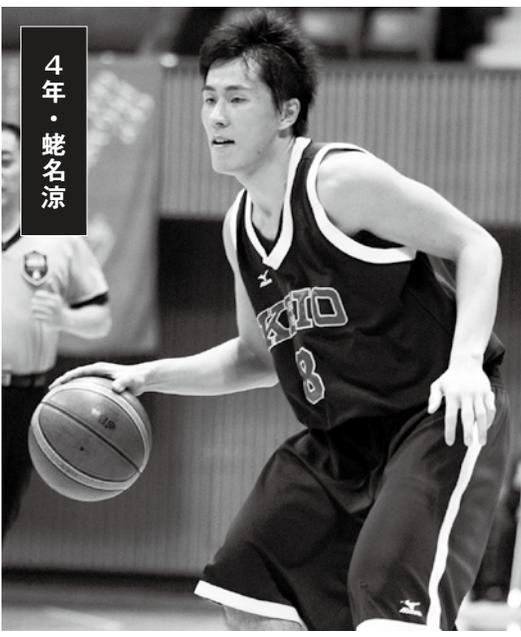
だからこそ、今年の彼らは勝利に飢えている。スロージャーガンである『勝利』からも伺える通り、必要なのは『勝利』の2文字のみ。どんな戦いでも「結果だけを求めて戦い抜く」のが、今シーズンの本塾だ。

そして、「絶対に負けられない戦い」が、遂に幕を開ける。「陸の王者復活」の為に――。

## 集大成

今シーズン、チームの鍵を握るのは、間違いなく4年生だ。長く本塾の中核を担い、栄光と挫折を経験してきた彼らも最終学年。彼らの活躍が、チームの勝利に直接影響してくる事にな

る。今シーズン主将を務めるのは、蛭名涼(法4)。昨シーズン、3年生ながら副将を務めた頼れる男は、昨年悩まされた怪我から完全復活。鍛え抜かれた強靱な



4年・蛭名涼

フィジカルを活かしてのリバウンドやディフェンス。ルーズボールは、健在だ。チームの精神的支柱として、最後の慶早戦で必勝を誓う。その蛭名と同じく怪我という長いトンネルを抜け出した男が、矢嶋瞭(総4)。頼れるエースだ。高

確率な飛び道具を武器に得点を量産するポイントゲッターは、怪我に苦しめられた2年間の借りを返してくれる事だろう。

2年間インサイドを守ってきた本橋祐典(環4)も、最終学年を迎える。豪快なリバウンドやブロックショットで、ゴール下に君臨する要だ。慶早戦では、本橋の活躍が重要になってくる。

大木峻介(経4)、平石健斗(環4)、長命祐樹(経4)の内部生トリオも、3年間の積み重ねで磨き上げられた武器を手に、早稲田の三連勝に待ったをかけ

## 飛躍の年

上級生になり更なる成長が期待される3年生。その筆頭が、伊藤良太(環3)だ。高い得点能力を武器に、大学界屈指のポイントガードに成長した伊藤。今シーズンの開幕当初は、「あるべき姿がハッキリしない」と悩む姿も見られたが、こ

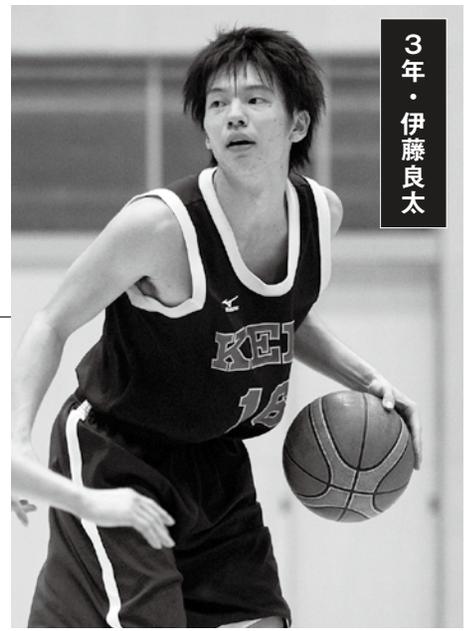
る。大型ポイントガードとしてベンチから出場機会を狙う大木は、ディフェンスとドライブでチームに勢いを与える。練習を重ね精度を高めた3ポイントにも注目だ。運動能力では部内では右に出る者はいない平石は、コート縦横無尽に駆け廻る韋駄天。その圧倒的なスピードを武器に、本塾のお家芸である堅守速攻を体現してみせるだろう。長身ながら内外問わずプレー

できる長命は、冷静なプレーでチームを助けるユーティリティプレイヤーだ。クレバーなディフェンスやリバウンドは、相手を苦しめること間違いなしだろう。

そして、副将を務める田中貴啓(環4)。クールなプレーとは裏腹に、チーム一熱いハートを持つ隠れた努力家だ。いつだって「チームの為に」をモットーに戦って来た男は、必殺のディフェンスと正確無比なジャンプシュートで、2年ぶりの勝利に貢献する事間違いなしだ。

長きに渡ってチームを牽引してきた男達の「最後の慶早戦」。彼らならば、必ずや栄光を掴んでくれる事だろう。

ここに来て本来の動きを取り戻しつつある。ディフェンス・ドライブ・3ポイントと、ガードに必要な能力を全て兼ね備えたエースが、今シーズンも早稲田の脅威になる。高い打点から放たれるアウトサイドシュートが魅力の権田隆人(政



3年・伊藤良太

3)も、注目のプレイヤーだ。3番・4番を自由にこなし、速攻の先頭を走る走力も持ち合わせる頼れるビックマンは、攻守でチームに貢献する。高さ不足のチームにあつて、彼の身長とプレースタイルの広さは欠かせないものとなっている。

吉川治瑛(環3)は、積極果敢なカットインと独特なフォームから放たれる3ポイント武器に得点を重ねるオフエンスマシー

を強化。相手にとって脅威となる存在へと変貌しつつある。チーム随一の身体能力の持ち主である真木達(環2)は、超越したスピードとディフェンスで本塾を助ける事になる事は間違いないだろう。華々しい実績を引っ下げてやって来た黒木亮(環1)も、1年を経てより熟練したプレイヤーへと進化した。体を張ったリバウンドと華麗なターンシュートで、チームに貢献する黒木。緑の下の力持ちとして、本塾を影で支え続ける男の活躍は必見だ。

その黒木のバックアップ

## 豊富なタレント

全学年最多の8人がメンバーに名を連ねた2年生は、昨年1年間を戦い抜いた事により、更に頼れる存在へと進化を遂げている。

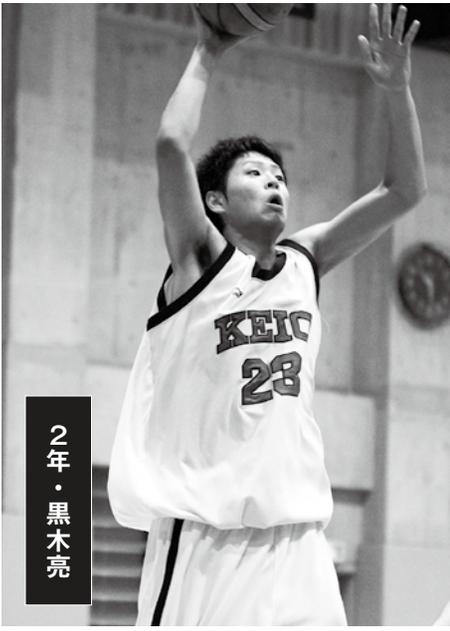
最初に名前を挙げるのは、大元孝文(環2)。本塾で1・2を争うトップスコアラパーへと成長した彼を止めるのは、困難だろう。抜群のバネを活かしたプレ

ムメイトであると同時にラブバル。互いに鎬(しのぎ)を削り合いながら、更なる高みを目指す。常に誰よりも大きな「フアイト」ボイスでチームメイトを鼓舞する清家智(経2)は、本塾の元氣印。献身的なディフェンスで貢献する彼の姿には、内部生としての誇りを感じる。

最後に、今年の新戦力を紹介しよう。1名のみメ

ンバー登録になったが、期待が掛かるルーキーが入ってきた。洛南高校から鳴り物入りで入ってきた西戸良(総1)が、ベンチに居るだけで脅威である。自慢の体力でコート駆け巡る、フレッシュマンらしいプレーに注目してほしい。

2年・大元孝文



2年・黒木亮

# 一意専心

昨年度本塾は、「結果を出す」という年間目標を掲げ、日々の練習から常に結果にこだわり、勝利に向かい戦い続けた。

しかし、秋のリーグ戦で自分たちのプレーを思うように体現することが難しく、なかなか勝利を掴めず、三部二三位、四部降格という厳しい結果となってしまった。

この悔しさを胸に、今年度本塾は「一意専心」というスローガンを打ち立て、今シーズンでの三部復帰を目指してより一層団結し、日々切磋琢磨し練習に励んでいる。例年になく小柄なチームではあるが、慶應のバスケットを体現するべくチーム一丸となって戦う本塾からは、今後も目が離せない!

## 本塾の要

それではここから、今年度唯一の四年生である#4森下綾を紹介しよう。

センターとしては小柄な彼女だが、見た目の可憐さからは想像できない程の力を秘め、素早いシュートモーションから放たれるジャンプシュートは次から次へとゴールに吸い込まれていく。上背のある相手を華麗なステップワ

クでかわす彼女のテクニクも必見だ。

更にディフェンス面でも、長い手足を巧みに操り、相手のどんなプレーにも対応しチームを牽引する。コート上を舞うような彼女の美しいプレーからは、一瞬たりとも目が離せない。

技術面のみならず、チームの精神的支柱として本塾を率いる彼女の姿も特筆すべきだろう。入部してから三年間、同期がいなくて弱音を吐かず戦い抜いた彼女の芯の強さは、周りを勇気づけ奮起させる。己に厳しく真摯にバスケットボールと向き合う彼女の姿から、後輩が学んだものは

## 個性溢れる選手たち

語り尽くせない。

今や経験・精神力・人望、全てを兼ね備えたまさに非の打ち所のない彼女。多くの苦勞を乗り越えてきた主将が最後の早慶戦、代々木体育館の観客の前でどんなプレーを見せてくれるのか、ぜひ期待していたきたい。

次に、主将を支えチームを引っ張る、本塾の三年生を紹介しよう。

本塾のスピードスター、副将の#5軽部陽子。身軽な体

で速攻の先頭を走るが、彼女の持ち味はその足の上に留まらない。スリーポイントシューターとしての信頼は折り紙つきで、ここぞというところで決めてくる勝負強さを持っている。今回も何本のスリーポイントシュートを決めてくれるのか、注目だ。

今年度主務兼副将を務め、激務をこなしながらも選手として活躍する新潟出身のスナイ

パー#6玉橋美咲。彼女のチームへの貢献度は計り知れない。足首の故障により長期離脱を余儀なくされたが、復帰後は半年以上のブランクを感じさせない安定したプレーでチームを引っ張る。

一年時にもスタメン経験のあるベテランのボールさばきは、見る人々を唸らせること間違いなしだ。

本塾を代表するテクニシャン#7大浦由梨佳。味方をも驚かせるトリッキーなプレーが持ち味の彼女。リーチの長さを活かしたフックシュートは秀逸だ。現在は、膝の故障のためリハビリに励んでいるが、一回り大きくなった彼女の姿をコートで見られる日もそう遠くないだろう。何事にも黙々と取り組む彼女の鍛え上げられた筋肉は、その質量とともに、今やチーム一となった。

ここからは、下級生ながらもチームの重要な戦力である二年生を紹介する。

本塾のオールラウンドプレイヤー#8虎岩里佳。スピードと技術を兼ね備え、多彩なステップワークと元気な声、可愛い笑顔でいかなる場面も切り抜ける。ドライブもツツコミも鋭い彼女の姿は、観客の目に鮮明に焼き付くことだろう。

チームのムードメーカー#9酒井亜弥。普段はどこか抜けているところもあるが、コートに立てば別人。一瞬の隙も逃さない鋭いドライブで相手を抜き去り、お相手のようなディフェンスで相手の行く手を阻む。得点・リバウンドを量産する彼女の活躍に、大いに期待を寄せよう。

鉄のボーカルフォイス#10遠藤真央香。相手からボールを奪うチャンスに常に狙い続け、どこからでもルーズボールを追いかける彼女にチームは幾度となく救われてきた。ゴール下で巧みにシュートを決めてくる器用さは、見る人を驚かせるだろう。鍛え抜かれた下半身を持つ

#11周東彩葉。軽快なフットワークから生み出される粘り強いディフェンスは、相手を翻弄するに違いない。広い視野を持つ彼女の敵を欺くパスは、会場を大いに盛り上げるだろう。

チーム一の元氣者#12野尻友里香。バスケットセンスに溢れ、常に虎視眈々とチャンスを狙うが、お嬢様な一面も持つ彼女。見とれる程美しい彼女の高確率なシュートは、必ずやチームに勢いをもたらすはずだ。

また、チームを陰ながら支える学生スタッフもいる。

超がつくほど真面目で勉強熱心な学生コーチ陣内美穂。多岐にわたる正確な知識を持ち、自身のプレイヤー経験を活かした彼女の発言は、全員を納得させる。一人ひとりの状況を把握し、的確すぎるアドバイスでチームに貢献する。

本塾の看板娘ことマネージャー吉次真秀子。プレイヤーを様々な面から支えつつ、部の仕事もそつなくこなす彼女には、学生だけでなくスタッフ陣も絶対の信頼を置いている。本塾が誇る愛らしい笑顔をお見逃しなく。

そして、今やチームに欠かせない存在となったのが、今年度から加入した一年生だ。それぞれが新風を吹き込み、チームの底上げを実現した彼女たちは、本塾の重要な戦力だ。

今年度のチームは、人数も少なく身体も大きくない。しかし、いかなる相手にも、真っ向から立ち向かう強い気持ちを持つている。本塾ならではの工夫に富んだバスケットスタイルは、観客を魅了するだろう。一人ひとりが自らの役割に徹し、全員の心が一つとなったとき、本塾は最大限の力を発揮し、勝利へ向かい疾走する。

それでは、選手・スタッフが一丸となり進化し続ける本塾のバスケットを、とくとご覧あれ!



主務兼副将  
玉橋 美咲 (#6)



主将  
森下 綾 (#4)

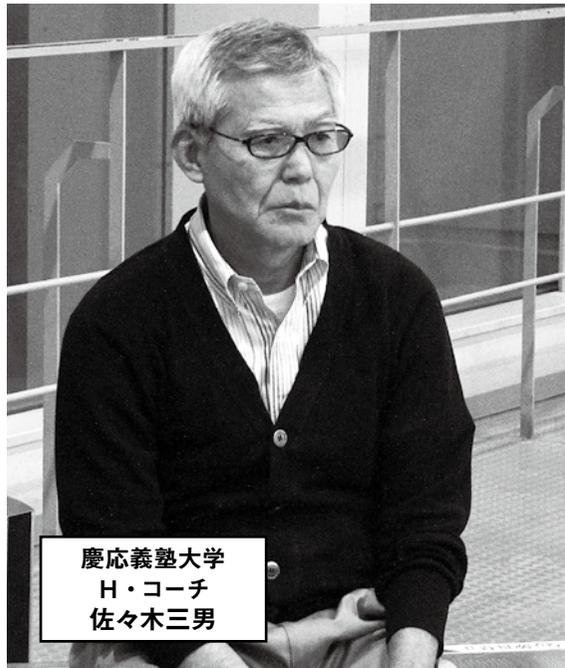
——昨年の早慶戦を振り返って、どのような試合でしたか？

**倉石監督** 早稲田が先にイニシアチブを取って有利に進めていた。しかし、後半の頭に慶應さんにイニシアチブを取られ逆転を許した。少し我慢をして見ていたが（流れが変わらず）無理だったので、そこからお尻を叩いて奮起させ、逆転して勝ったという試合だった。

——具体的には、どのような指示を出したのでしょうか？

**倉石監督** 早慶戦のような大きな試合には独特の雰囲気があるので、勢いが非常に重要になる。第3Qから第4Qにかけて逃げに入っていたため、自分達のプレーをやっている魂が入っていない状態に陥った。相手に攻められても防戦一方の守りになっていた。「ディフェンスから仕掛けていくように」と、自分達の勢いをつけるために積極的に動くよう指示を出した。

**佐々木 HC** 慶應は去年の春はあまり調子が良く無かったため、「早慶戦くらいは、頑張らなければ！」ということで、チャレンジャーの気持ちを持って格上の早稲田さんにぶつかって行こうと。そういう



慶應義塾大学  
H・コーチ  
佐々木三男

意味では、多少チームとしての纏まりが出てきたが、最後は実力の差が出て負けてしまったという戦いだった。

——去年の対談で「春のピークは早慶戦だ！」とおっしゃっていましたが、早慶戦に向けてどのようにピークを持っていかようとしているのでしょうか？

**倉石監督** 早慶ともに今年はスケジュールが混んでいる。4月の終わりから京王電鉄杯、すぐにそのままトーナメント、それが終わると、李相佰杯。そして早慶戦を迎える。4月の最終週から早慶戦までの土日は、ほぼ毎週のようにゲームが続く。この状況で、調整しろと言う方が難しく、練習も一つひとつの試合も疎かにできない気の抜けない日々が続く、非常に厳しい。今年は、例年にないほどゲーム数が多いため、プランを立てるのに苦労している。本で行われた六大学リーグの試合でも、どの大学も「春のトレーニングの成果」をどれくらい積めたのかくらいでしか見ていない。これでやっとトレーニングの計画を立てられるという感じだ。

**佐々木 HC** 我々はいつも春の出来が遅いので、そういう意味ではトーナメントも電鉄杯も、でき上がらないまま行くというような感じとなる。今年のトーナメントは、厳しい山に入ったようで、その分慶應の方が早く負けそうなので、練習が少しできるかと考えている。バランスの良い早稲田さんのチーム状況に対し、慶應が優れているところが今のところ見つけられない。そういう意味で言えば、気持ちを入れてトレーニングからもう一度始めないと追いつくことができないと思っている。

——春休みの成果は、六大学リーグ戦で発揮されましたか？

**倉石監督** 全くない。ないと言うよりも、2月から陸上トレーニングをやってきて、データを記録してきた。そのデータ評価をできるようにはなっているのが、それが直ちにバスケットボールに繋がるかという、必ずしもそうであるとは言えない。陸上担当の先生と相談しながらやっているが、「ボールゲームにマッチしたトレーニング」の研究成果になるこ

とは予想されるが、このトレーニングが、六大学リーグ戦に良い成果として出たかということになると疑問が残る。どちらかと言えば、ずっとバスケットボールをやってきた明治さんの方が、体力があるように見えた。早稲田はこの春、ランニングや走るフォームを整えることなど、「体幹トレーニング」ばかりやってきたため、根本的な体力が無いように感じられた。

**佐々木 HC** 色々な試合を戦うには、日本一の体力がなければいけないと思っているので、1ヶ月間は体育館で体力トレーニングをやってきた。六大学リーグの目標は当然勝つことではあるが、このトレーニングの成果がどれくらいゲームで発揮出来るかということも目標の一つにしていたので、そういった意味ではまだトレーニングが足りないなど。質をもう少し上げなければいけないと感じている。

——早慶戦は定期戦ですが、公式戦と戦う上での違いは？

**倉石監督** トーナメントやリーグ戦の場合は、大会自体に流れがあり、勢いをつけて行かなければならない。トーナメントは、特に両チームがシードチームなので、初戦は結構楽に戦って行けるが、戦っていく中でチームとしての勢いがついていかないと、トーナメントの一週間が、あっという間に終わってしまう。毎日毎日ゲームが続くので、チーム自体がトーナメントの勢いに乗れるという流れを作らなければならない。リーグ戦の場合は、試合を毎週土日行うので、最初が1であれば、最後が10になるくらいの気持ちでチームを作り上げていく。盛り上げていくという形を作ることが必要となる。しかし、定期戦に関しては一発勝負なので、あらゆる要素の全てを考えて行かなければならない。しかも、リーグ戦やトーナメントには無い、独特な雰囲気が早慶定期戦にはある。その雰囲気に飲まれることがないよう、心身共に充実を図って試合に臨むことが重要となる。そうしなければ、弾け飛んで終わってしまうことになりかねない。「他の試合では、あれだけでできていたのに、どうしてできないのだろう」ということが平



早稲田大学  
監督  
倉石平

気で起きる。そういったことが無いようにしなければならない。

**佐々木 HC** 慶應は、少し前まではトーナメントと定期戦の2つをピークに春を戦ってきたが、ここ2、3年はトーナメントもあまりいい成績が残せていない。早慶戦に勝てば、OBも許してくれるので（笑）。今年は、早慶定期戦一本に絞ってやらないといけない。今年は、格別に定期戦を取りに行かなければならないと思っている。

——昨年のインカレでは、近大の外国人選手が活躍したり、今年拓大にも外国人選手が入学しました。外国人留学生の特徴やその対策はどこにあるのでしょうか？

**倉石監督** 全く考えていない。が、「考えていないのは、逃げているのか？」と言われることは不本意なので、根本的な説明をする。我々としては日本代表になるような選手を育てるということが、最終的な目標であり、大学は通過点であると考えている。その上のNBLに選手を送り出して、その選手が日本代表になるということは、早慶共に目指しているところであると思う。こうした点から考えた場合、外国人選手がいたとしても、その選手に引けを取らないくら

いのプレーをするということは、我々としても狙っているところである。彼らが出てきたところで「ひるむことなく果敢にチャレンジして行く」という姿勢を持っていないと、国際ゲームでは勝てない。外国人選手とともに試合を行うことは、当たり前の世界なので、当たり前のこととして考えなければならない。相手チームはその外国人選手をチームの大黒柱として彼らに期待する部分は非常に大きいと思うが、それを潰してこそ我々としてはゲームが面白くなる。対等に戦うことは、我々としては面白くない。

**佐々木 HC** ある意味スモールナショナルチーム的な考え方をしている。簡単に言うと、チームディフェンス、チームオフェンスで、身長とか運動能力とかのハンディキャップを埋められていけると、ナショナルチームの役に立つような対応策というか、そういうものになるので、考えながらやっている。

——お二人の目から見て、現在の日本バスケのレベルは「昔と比べてどうなっている？」と思われませんか？

**倉石監督** レベルは、どちらかと言えば上がっていると思うが、世界レベルの上がり方はもっと激しく、それに比べて日本は少し遅い。世界と日本の現状を比較した場合、例えば、30年前に10くらいの差だったとすると、今は20くらいの差になっている。日本が遅れているという訳では無いが、その辺りを根本的に考えて行かなければならないと思っている。

**佐々木 HC** 今のナショナルチームを見ると、個性のある選手が少ないと思っている。ポイントガードにしる、シューターにしる、特徴ある選手がやや少な過ぎる。世界でもアジアでも、もう少し個性のある選手を育てて戦う準備をしなければならないという感じを持っている。

——それでは、これからの日本のバスケに必要なことは何なのでしょう？

**倉石監督** 今まさにそういったことを見直している最中にあり、佐々木先生とも協力しながらやっている。日本バスケットボール協会の中で大きな柱が2つある。1つは指導者の育成であり、もう1つは選

手の育成ということである。選手の育成については今、ミニバスから根本的に見直しを図っており、そこから中高大という形で、「ミニバスから一貫した形で大きなものを得る」というように考えている。年代毎にその場を凌いでいるため、現在はそれぞれが分断されている。年代を通した評価を続けて行くという継続性が重要であると思う。指導者も増やしていかなければならない。現在これだけ競技人口が増加し、チーム数も多くなってきているにも関わらず、競技者を教える為の公認コーチの資格保有者が非常に少ない。我々としては、「このような指導をしてもらいたい」という情報共有を図り、それを全部受けて貰える人を作るためには、公認コーチを増やす必要がある。現在の3倍増は必要である。非常に大変なことではあるが、避けては通れない。これが実現すれば、一気にもっと良い選手が出てくるようになると期待できる。

**佐々木 HC** 倉石さんに仰って頂いたので、私は少し別の視点から述べる。男子は40年くらいオリンピックに出場できていない。これは、アメリカのバスケットボールを多くの指導者が研究し、それを実践してきた結果ではないかという気がしている。女子を見ていると「日本人に合ったバスケットボール」をしているように感じられる。今後、「日本人に向けた」「日本人でも国際試合に対応できるバスケットボール」を男子も探していく必要があると考える。「もう一歩でオリンピックに行ける」という女子の現状を見ると、日本人向きのバスケットボールを男子も早く探さなければいけない。それを探すシステムは今、倉石さんに仰って頂いたように、「選手の育成と指導者の育成を上手く噛み合わせる」ということが、一番の近道であると思う。

——また、両チームのことに戻りたいのですが、今季のチームと昨季のチームとの違いはどこでしょうか？

**倉石監督** 早稲田は、昨年のメンバーから大塚一人が抜けただけなので、戦力的にはそんなにダウンしていない。また、河上がユニバーシアード等、そういった環境で練習を重ねていることが、早稲田とし

てはプラスになっているように思う。更に、彼はこれまでインサイドに控えが誰もいなかったためインサイドをやらざるを得ない状況で、4番や5番をやっていたが、宮脇が入ってきたお陰で彼を3番に上げることが可能となる。将来のことを考え場合、3番か2番のポジションをやってもらわないと困ると考えており、そういうところで活躍できるとなれば、チームとしては相当プラスになり、サイズも大きくなって、いい戦いができるようになるのではないかと考えている。彼のポジションアップというのは、チームとしてかなり向上できるのではないかと。失敗すれば大変なことになるが。

**佐々木 HC** 慶應は、人材的には大きな抜けは無いが、新しい戦力がゼロなので、昨年のチームを現状維持というところだ。早稲田さんとは、相当実力差があると判断している。先程述べたようにチームオフェンス、チームディフェンスで個々の力、あるいは新しい力で差のあるところをカバーしなければならない。

現状は変わっていないが、早稲田さんの方が相当良くなっている。差は開いている感じがしている。——今年の早慶戦でのキーマンは誰でしょうか？

**倉石監督** 早稲田の看板は河上。キーマンは河上です。もし河上が抜けた場合は、キーマン不在となるので、あまり考えたくない。3年間育てて来た河上を中心にチームを構成していく。

**佐々木 HC** キーマンとしては、昨年怪我でほとんど使えなかった蛭名と矢嶋が、どれぐらい早慶戦に向けて体も心もピークを作れるかということだと思うので、キーマンはこの2人となる。

——では、相手チームで警戒する選手は？

**倉石監督** やはり矢嶋、蛭名の2人。矢嶋は、外の飛び道具をたくさん持っており、瞬発的な動きが結構シャープなので、彼にマッチアップする選手を考えなければならない。佐々木先生が彼を2番で使ったり3番で使ったり、上手く色々な事をしてくれるので、早稲田はそのたびに誰がマッチアップをするのかということを考えなければならないことになる。



大きい選手を付ける足元を抜かれ、小さい選手を付ければ、彼は運動能力が高いので、今度は mismatch を使われる。その辺りが、早稲田としては厄介であると感じる。

**佐々木 HC** インサイドもシューターも、早稲田さんの力が上なので、そういう意味では、非常に難しい戦いになる。「誰」に気を付けろというより、「全員」にとなる。ガードが少しチャンスかと思っていたが、今日見たらガードも5枚くらいいるので、全員が要注意人物であると思う。

——最後に早慶戦のファンや応援に来て下さる方々へ一言お願いします

**倉石監督** 大学界の中でも心身共に充実した戦い方をする両チームなので、観ていてスキルだとか今いる陣容だけではないものもあります。これは観ないと肌で感じることはできません。是非とも会場に足を運んで頂いて、それをヒシヒシと感じるような、メンタル的な、激しくぶつかり合うような、そういうものを感じて頂けると凄く嬉しいと思います。

**佐々木 HC** できれば慶應は、早慶戦のジnkスというか、伝統というか、弱い方が頑張っているところを実現したいと思います。力が劣っていても、心や考え方とか、そういう所で上手な相手に挑んで行けるという試合を見て頂きたいと思います。大学スポーツというのは、体とか技術も大事ですが、「向かって行く気持ち」や「チームとしての一体感」、それで慶應は戦うしかないの、それらを観客として、応援として、是非足を運び、実感して頂ければと思います。



早稲田大学 big bears

河上 宗平

慶應義塾大学 UNICORNS

蛭名 涼

——六大学リーグ戦(3月16日)で戦ってみたお互いの印象についてお聞かせ下さい。

**河上** 慶應のメンバーが小さくて、トランジションについていくのが大変でした。

**蛭名** 僕は早慶で意識した訳ではなかったのですが、小さくなったので、河上とマッチアップし止めなきゃな、と思っていました。ですがやられてしまいました。

——新チームの雰囲気はどうか？

**河上** バスケットらしい練習を始めたのは最近で、楽しいなかにも厳しさがあって、いい雰囲気できていると思います。

**蛭名** 僕は厳しくやっていますよ。とにかく今年は2部から上がらないといけない状況で、勝たなければいけない状況が続くと思うので、まず「自分に厳しくやろう」と皆で決めています。

——春の練習はどのように取り組んできましたか

**河上** 僕たちはずっと「体幹トレーニング」を中心にやってきました。バスケットらしい練習を始めたの

は、六大学がある一週間くらい前からです。みんな元々、体格がよくなかったのですが、最近ウエイトも意識的に取り組んでいて効果が出て来ていると思います。

**蛭名** 僕らも一緒です。毎年走り込んで、ディフェンスやってという時期なので、特別何かやった訳ではありません。先生から指導頂いた目標は、「全力でプレーしても40分間走れることを証明しよう」ということでした。今日の試合でも、走れたといえば走れたと思います。

**河上** 俺は走れなかった。(笑)

**蛭名** 早稲田も慶應も、本当にずっと走れたゲームではなかったの、少しは試合で表現出来たとは思っています。

——去年のチームとの違いはなんですか？

**河上** 去年は大塚さんというチームの柱がいて、周りの選手はそれに合わせる形が多かった。今年は司令塔が抜けたので、僕から展開するプレーが増えていくと思います。試合に出ているメンバーは下級生

が多く、最上級生で出ているのは僕と玉井と二宮くらいなので、勢いはありますが、その分経験の無さが怖さになるのかなとも思っています。

**蛭名** 僕らは試合に出るメンバーとしては大きくは変わらないですが、「勝ちたい」とは言っているものの、結果がついてきていない。今年は、さらに強い気持ちで意識を変えようとしているところです。今年は、ここ数年で一番メンバーが揃ったのではないかなと思っています。

**河上** 今年、慶應はいいメンバーが揃っているよね。

**蛭名** 言ってもらえたので。(笑)

**河上** 慶應は、ここ最近下級生主体のチームでやってきているからね。

**蛭名** ただ怪我人が多くて、難しいところです。変えなければいけない点は、やはり意識ですね。——キャプテンになって変わったことはありますか？

**蛭名** 僕は特になんかという訳ではないけど。

**河上** 元々キャプテン気質なんですよ。(笑)

**蛭名** 就職活動では大いに使っています。(笑)でも、高校時代とは違い、慶應では背負っている部員の想いが違いますね。高校はキャプテンとはいえ、毎日が争いで、少しでも気を抜くとスタメンを取られてしまうので、「個人的な頑張り」を重視していました。慶應に入ってから、「自分のため」でもありますが、半々くらいは「支えてもらっている人のため」という意識が大きくなっていると思います。そういう人たちのためにも、今まで自分が頑張ってきたことよりも頑張らなければ勝てないので、その意識は変わりました。

——昨シーズンはどういったシーズンでしたか？

**河上** 一言で言えば「最悪」でした。一つも良いことが無かったです。シーズン通して苦しかったです。

**蛭名** 僕らもそうでした。僕も矢嶋も試合に出ませんし、やりたいのにやれないし、勝てないし。今年にその悔しい想いを繋げられればと思っています。——去年の早慶戦について

**河上** 僕がまた足つって、途中で抜けて、最後大塚

さんがいいところを持って行ったなど。

**蛭名** 僕はあまり覚えてないです。(笑)ただ今年は勝ちたいです。でも、今日のような感じだと勝てないので、まずは河上を抑えないとキツイですね。

**河上** 俺らもトランジションについていけるかわからないから。(笑)

**蛭名** だって洛南多いじゃん。(笑)

**河上** 早稲田に10人居る中で、7人とか8人が今日試合に出ていたね。

——洛南高校時代の思い出はなにかありますか？

**河上** 俺らずっと同じ部屋だったよね。

**蛭名** 寮生だったので、部屋替えとかあるのですが、ずっと一緒でした。たぶん河上が二段ベッドの下で僕が上でした。(笑)

**河上** 決まりごととして作った訳ではなく、自然とそうになりました。入学前からU-15で一緒になり、その時すでに蛭名は洛南って決めていたらしいですけど、僕が12月末まで悩んでいたから、蛭名から連絡を貰って、「一緒に洛南でやろうよ」と言われ、ちょうどその時に洛南行くと決めていた事もあり、「入って一緒に頑張ろう」と言っていました。

**蛭名** そんなことあったね。入試も一緒に東寺行って鯉見に行ったりして、思い出はいくらでも出てきます。3年分出てきます。(笑)

——今でもプライベートでの交流はありますか？

**蛭名・河上** それはないです。

**河上** 「洛南で集まって」っていうのはあるよね。

**蛭名** 他の代はあるみたいなのですが、僕がやらないので。みんな個性強いので、集まろうと言っても集まらないですね。

**河上** キャプテン大変だったと思いますよ。

**蛭名** 伊藤にもひろし(大元)にも言われます。(笑)でも、実際高校の時は河上が試合に出ている時は安心してやっていました。国体で僕らが三年生の時に勝てたのは河上のおかげだし。

——大学に入ってからお互いの印象で変わった点ありますか？

**河上** これまでは蛭名とマッチアップすることが全

くなかったのですが、去年とか今年は僕にマークしてくることが多くて。

**蛭名** 自然とそうなっちゃう。(笑)

**河上** やはりフィジカルが強くて、足も動くのでやりづらいです。あと真面目です。リバウンドに参加したり、目立たないところを率先してやってきます。理想のキャプテンです。

**蛭名** 僕にはそこしか生き残る道はないと思っていますので。でも、限界はあるなと感じる部分はあります。飛ばれたりしたら敵わないです。河上は、高校時代はベンチから試合に出てきて、流れを変えるようなシュートブロックとかリバウンドとか、当時からその点は光っていました。大学に入ってから、中だけではなく外のシュートも身につけて、止められないです。高校の時に一番信頼していたのは河上で、大学に入って自由に出来るようになったことで更に伸びたと思います。

**河上** 恥ずかしいです。(笑)

——一番思い出に残っている試合はどの試合ですか？

**河上** 僕が2年生の時の早慶戦です。蛭名には悪いですけれど、早慶戦初の100点ゲームで、あの時はイケイケで楽しかった覚えがあります。

**蛭名** 僕も2年生の時の早慶戦です。その時の河上の振り向きざまのジャンプシュートで、本当に止められないなと思いました。

——洛南の後輩が両校にも沢山いますが、どう感じていますか？

**河上** 僕らが言うのも変ですが、みんな上手くて能力があります。今の時期は色々な出身高校から練習に来っていますが、やっぱり洛南が抜き出ていると思います。僕らはそういう「バスケットスタイル」を教わって、そういう目で見ているので。やりやすい部分かもしれませんが、吉田先生様です。(笑)

**蛭名** 相当に助かる部分が多いです。

——では、洛南高校のバスケットとはどういったものなのでしょうか？

**河上** パス&ランですね。僕らの時から、ドリブル

とか余計なことしたら、怒られていました。「ボールの無いところで勝負しろ！」と言われていました。それは大学で生きています。関東の大学には、上手い人が集まってくるとそれぞれにエゴがある。でも、色々なチームがあるなかで、ボールは一個しかないので、洛南で培ったオフボールの時とか、その後の動きとかは今でも助けられています。

**蛭名** ディフェンスもそうです。「5人で1人を守る」という守り方を浸透させてくれました。全てにおいて理に適っている、無駄がないプレーを教えてくださいました。試合してみると、「こういうことか」と気づかされました。無駄の無い基本が継承されています。

——大学に洛南が多いと感じることはありますか？

**河上** 多過ぎるとは思わないです。(笑)去年のリーグ戦で、出ているメンバー5人全員洛南だった事もあります。みんな関東の大学に来るので、今日の慶應戦もそうですが、8人コートに出ている状態がありました。でも直属の後輩なので、一緒に出来て楽しいですし、何よりやりやすいです。

**蛭名** 相手チームに居てもやりやすいですよ。(笑)「洛南だところ行く」というのがわかります。慶應にも、もう少し入って欲しいです。

**河上** でも毎年1人ずつ入っているよね。今年早稲田は3人入ったけれど。(笑)

**蛭名** 3人は卑怯ですよ。(笑)上手い人が引退しても、次の人がいる。

——洛南の後輩でオススメの後輩はいますか？

**河上** 木澤とか上手いですよね。正直地味ですけど、ディフェンスもいいし、そつがないですし、まさに洛南のガードって感じです。

**蛭名** 僕からしたら、入ってきてくれることが嬉しいです。みんな凄いです、僕以外は。だから、僕以外の3人です。(笑)僕はその人たちのこぼれたボールを拾えればいいです。でも続いて入部してくれたので、嬉しいです。僕が入部した時には上級生に誰も洛南高校出身者がいなくて、続いて入ってくれて嬉しいです。慶應入るのって難しいですよ。それに

も関わらず、目指してくれて、それでいてバスケットで活躍してくれれば、もう僕は言うことはないです。——大学で同じチームでやりたいとは思いませんでしたか？

**河上** 無かったですね。

**蛭名** 違うチームでやりたかったですね。

**河上** 新しい環境でやりたかったですね。結局、洛南メンバーとやっていますけれど。(笑)でも一緒にやりたいとも思わないし、離れたいとも思いませんでした。

**蛭名** そういう基準で進路を決めるのは、たぶん誰もしてないと思います。3年もやれば飽きるし。(笑)

**河上** 大学入ってから、「また洛南でプレーしたいな」とは思います。

**蛭名** 学年対抗戦とかやりたいよね。俺らぼろ負けだろうけど。(笑)

——今回の早慶戦でお互いのチームでキーマンは？

**河上** 慶應は前から当たってくるので、ガードの池田くんじゃないですかね。ハーフまでしっかりボールを運んでこられれば、早稲田の流れになると思うので。あとは「全員で守って、全員で走る」というスタイルを貫きます。

**蛭名** 矢嶋ですね。(隣で取材を受けていた大元選手と目を合わせながら)、それと、大元で。(笑)実際は本橋や矢嶋に頑張ってもらいたい部分があり、僕も頑張らなければならない部分もありますけれど。一応、矢嶋ですね。誰よりも熱い気持ちを持っていると思うので、それを表現できれば一試合50点くらい取ってくれると思います。

——では、お互いで警戒する選手は誰ですか？

**河上** チームで見たら矢嶋なんか爆発力のある選手なので、ケアしなければなりません。また、ガード陣はすごい良い選手が多く、特に蛭名や伊藤や大元のような得点力がある選手が多い。トランジションゲームになったら威力を発揮してくるので、そこはケアしたいです。

**蛭名** うちのケアするのは、どう考えても河上です。河上に30点取られれば絶対に勝てないですし、河上



ばかり見ていると玉井に走られたり、木村に外から決められたり、早稲田はまんべんなく上手いですよね。でもやっぱり一番警戒すべきは河上です。

——お互いにとって早慶戦とは？

**蛭名** 他からみたら大したことないように思われがちですが、年を増すごとに京都府予選(洛南対東山)に似てきますね。他の人から見たら、どうせ洛南が勝つだろうという感じですが、僕らは結構必死なので。

**河上** 一年で一番盛り上がる試合です。

**蛭名** 慶應からしたら、マネージャーやOBのおかげで代々木で試合が出来るので、2部の僕らがあんない所で出来るのは光栄に思わないといけません。そしてこの早慶戦は僕らとして最後の試合なので、勝ち越しは出来ないのですが、「自分自身の代は勝ちたい」と思います。

——早慶戦を観に来てくださるファンの皆様に向けて

**蛭名** 早稲田のファンの方でも慶應のファンの方でも、僕らの熱い気持ちで感動していただければ、何かの原動力になっていただければ、バスケットをしている意味があるのかなと思います。ですので、熱い気持ちを観に来てください。

**河上** 学生らしく、早慶の名に恥じない、ハツラツとしたプレーをしたいと思います

——今回が最後の早慶戦となりますが…。

**玉井** 去年出場出来なかったの、今年は最後ということもありますし、是非勝ちたいですね。

**二宮** 僕、一回も早慶戦出たことないので、今回初めて出ることになれば勝ちたいですね。

**本橋** 出られるかどうかかわからないですが、ずっと負けているので、最後くらい勝ちたいですね。

**矢嶋** 僕は去年、松葉杖つきながら見ていたのですが、すごくいい試合で、出られなくて悔しかったです。絶対に負けられない試合なので勝ちたいです。——これまでの早慶戦で、記憶に残っている試合はありますか？

**矢嶋** 僕は1年生の時に、初めての早慶戦が慶應のホームで開催され、そこで最後逆転劇でいい勝ち方をして、早慶戦ってこんなに凄い試合なんだなって感じました。そこから一昨年・去年と勝てていないので、1年の時が一番印象に残っていますね。

**玉井** 同じく。(笑)

**二宮** そんなに印象はないですね。ずっと見ていただけなので。

**本橋** 一番思い出に残っているのは自分たちのホームでやった時ですけど、試合に出て楽しかったのは去年ですね。

——ことしのチームの強みは？

**玉井** 今年は新人が結構良くて、センターとかやってくれるので。あとは、去年のチームからガードの大塚さんが抜けたくらいなので、ほとんど同じですね。

**二宮** 変わらないからチームを作りやすいというのは、強みなのかなと思います。

**本橋** 僕らも人が変わっていないですね。

**矢嶋** 慶應は身長が低いという点はあるのですが、そのぶん早

い展開を得意としていて、これから早慶戦で勝つためにはそこを突きつめていかなければならないと思います。

——チームのキーマンとなる選手は？

**玉井** 河上さん。河上さんの調子次第ですね。あとは二宮ですね。チームの大黒柱として、リバウンドとかディフェンスとか頑張ってくれます。

**二宮** 頑張ります。

**矢嶋** 僕はバスケットセンターが大事だと思っているので、ガードが良くても、ゴール下だったりリバウンドのほう重要で、いま怪我している黒木くんとか、新しく素人ながら頑張っている山崎くんとか、彼らの頑張りが僕らの勝利に繋がると思うので。本当の気持ちを言うと、一番期待しているのは本橋くんですね。

——自分はどうなキャラクターだと思いますか？

**玉井** いい意味で、遊び人です。(笑)

**二宮** 僕はいじられキャラですかね。

**本橋** ことしからチェンジを目指しているのですが、僕は本音を言うとすごく根暗で、一人が好きだったりします。いじられるとテンションがあがることもあるので、そこらへんを押し出していきたくと思っています。(笑)

**矢嶋** 鉄道マニアです。昨日(3月16日)、東急東横線渋谷駅のホームが最後の日で、しっかり行ってきました。(笑)オタクとかじゃなくて、単に好きだけです。

——お互いの意外な一面などはありますか？

**玉井** こいつ(二宮)は、見たそのままですよ。いじられキャラです。1年のころは、いじられるのに慣れてなくて、キレたりもしていましたけれど。(笑)

**矢嶋** みんな見たままその通りだよ。



玉井 健児  
早稲田大学 big bears



二宮 弘憲  
早稲田大学 big bears

——趣味は？

**矢嶋** 僕は温泉が好きなので、結構地元だったり神奈川の温泉だったり、日帰りで行きます。あとは寝る前に、「聞き鉄」といって、発車ベルの音を聞いて癒されます。

**玉井** え！マジで？(笑)

**本橋** 買い物に行って、特に何か買うわけでもないのですが、ブラブラしたりします。あとは、家から出たくない日は、ずっとゲームしています。ただの廃人ですね。(笑)

**二宮** 本橋と一緒に寝るかゲームしているか、ボーッと携帯いじっているか。(笑)たまに外出して、プラーツとするくらい。

**玉井** 僕、オフの日じゃなくて、オフの前の日の夜に遊びに行って、次の日に丸々1日寝ています。(笑)

**本橋** リア充っぽい。(笑)

**二宮** たしかにオフの日はずっと寝ているよね。——得意なプレーは？

**玉井** 速攻が主なので走ることに、リバウンド取るくらいですかね。

**二宮** 僕は、もうゴール下でゴリゴリやるのが好きなので。

**本橋** 僕は、リバウンドと、むさくるしい戦いを見てもらえれば。(笑)

**矢嶋** 得点を取る事も大事なのですが、オフェンスリバウンドとルーズボールを渡さないこと。特に早慶戦では、そういうところで勝負が分かれると思うので。

——昨日(3月16日)実際に戦ってみてどうでしたか？

**矢嶋** 僕は、早慶戦というよりも復帰戦だったので、それが早慶戦というのは、結構嬉しかったですね。まだまだ自分のプレーで精一杯だったので、早慶戦ま

でにはしっかり調子を上げたいですね。玉井くんとか河上くんとかにマッチアップして癖とかも思い出したので、そういうところを突き詰めていこうと思います。昨日はいい経験でした。

**本橋** 昨日やって、とりあえず河上くんにはボコボコにやられたのですが、彼以外にも早稲田はタレントが多いなという印象なので、試合の流れを一气もっていかれないように気をつけなければならぬと思いました。

**二宮** 昨日やったイメージは、オフェンス・ディフェンスの切り替えがすごく早いということです。運動量もすごかったので、そこで負けないようにしたいですね。

**玉井** 二宮が言ったように、切り替えがものすごく早くて、いつも走っているイメージで、ディフェンスも厳しく当たってくる印象でした。僕は、ちょっと嫌な印象でしたね。

——早慶戦への意気込みをお聞かせ下さい。

**玉井** 全力で。去年出ていなかった分も、今年は活躍して勝ちます。

**二宮** 3年間1度も出たことがないので、この3年間の思いを全部出し切れたらいいなと思います。

**本橋** 代々木の舞台上、2年振りに勝利したいです。お客さんがいっぱい来てくれると思うので、いい試合をしたいです。

**矢嶋** 僕も、去年試合に出られなくて悔しい思いをしたので、慶應の選手として早慶戦をやれるのは今年で最後なので、絶対に勝って終わりたいと思います。あと、僕を手術してくれた先生(大谷さん)が、早慶戦のために治して下さったので、頑張りたいです。



矢嶋 瞭  
慶應義塾大学 UNICORNS



本橋 祐典  
慶應義塾大学 UNICORNS

——過去2年のシーズンを振り返ってみて？

**平野** 昨年、早稲田はリーグ戦で上位に食い込む事ができずに、入れ替え戦に廻ってしまった。今年は、1部リーグ上位に食い込みたいと思っています。

**木村** 僕も同じです。1年の時は良い思いをさせてもらったが、昨年は良い思いが無く、辛い事や嬉しい事がいろいろあった。それが、良い経験になりました。

**伊藤** 1年の時は1部で、2年の時は2部で毎年入れ替え戦を味わいました。勝てない試合が続いていく中で、いろいろ経験させてもらいました。しかし、勝利を目指しているの、今後はもっと結果にこだわってやっていきたいと思っています。

**権田** ここ2年間なかなか勝てない試合が続いて、自分が入学してから慶應が勝利した試合の印象があまりない。もっと勝ちを意識してやっていきたいと思っています。

——東京六大学で久々に戦って、お互いの印象はいかがでしたか？

**平野** 慶應は、トランジションがすごく速いです。空いたらどンドン(シュートを)打ってくる感じです。

**木村** そういところを慶應は徹底的にやってくるので、どうしても試合がアップテンポになり慶應ペースで進んでしまう事が多いです。

**伊藤** 早稲田は、1対1が非常に強いチームです。そして早稲田と対戦する時は、いつも速い展開のトランジションゲームになってしまいます。こういった展開の試合に勝つ事は、重要だと思います。

——互いのチームのキーパーソンはいますか？

**平野** 蛭名さん、矢嶋さん、本橋さん。あと伊藤、権ちゃん(権田)かな？

**木村** (伊藤)良太が、かなり部分でチームの中心を務めていると思うので、良太を「いかにプレーしづらくするか」が大事な事だと思います。

**権田** 木村くんを、調子に乗せないようにします。彼は、すぐに調子に乗るので(笑)。

**伊藤** 早慶戦は、4年生が重要になってくると思うので、河上さんと二宮さん、あと調子に乗る木村くんをどういうふう抑えていくかを、早慶戦までに考えます。

——お互いのチームから取り入れたい部分などありますか？

**木村** 慶應の「チームの一体感」です。慶應が昨シーズン入れ替え戦に廻った時、ワンプレー・ワンプレーみんなで盛り上がり、そして喜んでいるのを見た時は、チームの絆を感じました。早稲田は、熱い人と冷静な人といろいろいる個性派集団なので。

**伊藤** 今日試合中に感じた事は、ゲームを良く知っている事、監督とは勿論の事、選手の間で「次はこうしよう！」などと話し合い、実行できる事が素晴らしいと思います。

——今シーズンの自分たちのチームの特徴を教えてください。

**平野** 河上さんを中心に、1対1に自信があります。河上さんは、今シーズンマークがキツくなると思うので、(木村)晃大とか二宮さんとか得点力がある選手で得点に結びつけていきたいと思っています。

**権田** 今年の4年生は1年生の時から試合に出場していますので、その経験から「どういふうに試合に臨むか？」も分かっています。4年生が作り上げた流れに、下級生が乗って行ければと思います。

——それぞれのセールスポイントを教えてください。

**平野** 僕は、エネルギーが豊富です。本当に



権田 隆人

慶應義塾大学 UNICORNS



伊藤 良太

慶應義塾大学 UNICORNS

それだけです。

**木村** 僕は、調子に乗るところです(笑)。まあ、その日によるけど。良い意味で調子に乗ったら“ヤバイな！”という感じです。

**伊藤** 僕は、声です。

**平野** おまえ、そんなに声を出さないだろ(笑)。

**伊藤** 出しているよ！声は意識しています。

**権田** 僕は、中距離のシュートです。

——コート外のみなさんの印象は、どのようでしょうか？

**平野** 伊藤くんは、非常に適当です。こんな甘いマスクから、チャーミングな一面も合わせ持っています。

**伊藤** 平野くんは、やっぱり髪型ですね。髪型が、毎回会うたびに変わっています。

**平野** 今は、無造作ヘアーです。

**伊藤** ワックスも相当付けていますね。でも根が真面目なので、高校時代に彼から教わった事はたくさんあります。すばらしい人です。

**木村** ゴン(権田)は、頭が良くてめちゃくちゃ良い奴です。怒ったところを、見た事が無い。でも、試合になると「冷静にバンプ」とかしてくるので、手強いです。

**権田** 木村くんは、陽気でおしゃべりで元気のいい好青年だと思います。バスケットに関しては、真摯に忠実なプレーを見せてくれます。コート外では陽気なのに、バスケットにしっかり向き合えるところは、素晴らしいところだと思います。

**平野** 俺ら2人で、削りあっているな(笑)。

——オフの日の過ごし方を教えてください。

**平野** 僕は、ウイイレ(ウイニングイレブン)やります。

**伊藤・権田** またやっているの！？

**木村** オフの前の夜に、チームメイトの吉岡修平と遊びに行きます。

**伊藤** カフェへ行きます。カフェで、本読んでいます。

**権田** 僕は、最近映画ばかり見えています。アカデミー賞受賞作品を、見に行きました。

**平野** ぼいね。

**木村** ぼいよね。

——早慶戦の位置づけについて？

**平野** 僕は、毎回こうやって対談させて頂くのですが、未だに早慶戦に出場した事が無い。正直、早慶戦の実感があまり湧かないので、今年はみんなとのギャップを埋めたいと思います。

**伊藤** 過去2年間、勝った早慶戦を味わった事が無いので、チーム全体で勝ちを喜びたいです。

**木村** 早慶戦は、シーズン前半戦の最後の試合なので、前半戦の終わり方が良いと秋のリーグ戦にも繋がると思います。そして、お祭りのような雰囲気もあって楽しいので、結構大事な試合です。

**権田** 僕たち3年生にとって、早慶戦は春シーズン最後の試合で、1部のチームと戦える事も重要です。そして、秋のリーグ戦に繋げるためには、勝つのが一番大きいと思います。

——昨年の早慶戦の結果をどのように捉えていますか？

**平野** 昨年の早慶戦は晃大もさっき言ったのですが、シーズン前半の最後の試合を勝って終わって、チームが良い方向で秋のリーグ戦を向かえられました。

**木村** 昨年の京王電鉄杯では、早稲田自体が全く良くなかったです。苦しかったのです。



木村 晃大

早稲田大学 big bears

が、早慶戦に向けてみんなでモチベーション高めて勝った事によって、チームの雰囲気も一気に変わりました。

もし、そのままの雰囲気で悪いムードを引きずっていたら、昨シーズンは2部に降格していてもおかしくなかった。早慶戦に勝った事によってチームも息を吹き返しましたし、個人的にも「頑張れば勝てる、良い試合ができる」と言う事に気付く事ができたので、良い意味があった試合だったと思います。

**伊藤** 自分達は負けてしまって、秋のリーグ戦も良い結果を残せませんでした。早慶戦での結果を引きずった訳ではありませんが、影響があった事は感じています。やっぱり、昨年大塚さんとマッチアップさせて頂いて、「4年生の意地やうまさ」などを感じる試合でした。

**権田** 僕が個人的に思った事は、「第3ピリオドに逆転できそうだった試合」「勝てそうな試合」「勝ちきれない事」が、結局僕たちの秋シーズン通しての課題となりました。早慶戦は、「難しい試合になるのは間違いない」と思うので、そういう大一番に勝利できるようなメンタリティを持てるようになりたいです。

——今年目標について教えてください。

**平野** チームとしては、まず春のトーナメントで優勝を目指しています。個人としては、試合の状況や対戦相手によって出場時間などが変わりますが、自分の役割をどんな局面や場面でも徹底し、チームを勝利に導ければいいなと思います。

**木村** 本当は全部勝ちたいですが、トーナメントも早慶戦も自分達のベストを尽くし、自分達の追い求めているバスケをしっかりとやり、結果だけでなく内容も伴った勝利を挙げたいと思います。

個人としては、今年は自覚を持って、チームに貢献できるプレイヤーになれればと思います。

**伊藤** 僕たちは、1部昇格が絶対的な目標です。そのためにも早慶戦を始めとする、一つ一つの大会が大事になってくるので、しっかり良い内容で勝利を挙げたいです。個人としては、1年から試合に出場



させて頂いたのに良い結果を残す事ができなかったのも、今年こそはチームを良い結果に導けるように頑張りたいと思います。

**権田** 今年は、本当に何としても1部に上がらなければいけないシーズンだと思っているので、早慶戦を始めとした全ての大会が昇格するために必要になってくると思います。どの試合も疎かにする事なく、チームの勝利に貢献し、全力で取り組んで行きたいと思います。個人的には、去年は怪我人が多かった事もあり、結構スターターで出場させてもらいましたが、今年は怪我人も復帰したので、まずは試合に出場する事です。もし、出場できないにしても、チームの勝利に貢献する方法はいくらでもあると思うので、「試合に出る・出ない」に関係なく貢献していきたいと思います。

——最後に、早慶戦への意気込みをお願いします。

**平野** 僕の持ち味である、「エネルギーにスパークしていきたい」と思います！

**木村** 僕は、毎年パンフレットに書いていますが、「燃えます！」

**伊藤** 僕たちは、今年勝たないと勝敗の差が1敗にならない。来年“イーブン”に持ちこむためにも、必ず勝ちたいです。

**平野** まあ俺ら4連勝するから、“イーブン”とか無いけどな！

**木村** そうだよな！

**一同** (笑)

**権田** 絶対勝ちます！

**平野** ゴンちゃん言葉には、重みがあるよね。

——昨年の早慶戦を振り返ってどうですか？

**山本** 緊張しました。

**木澤** 試合には出場しませんでした、凄く盛り上がったので「早慶戦っていいな！」と思いました。

**池田** 僕も同じで、会場いっぱい観客が来場し、「早稲田！慶應！」と応援して頂き盛り上がりました。楽しかったです。

**黒木** 早慶戦という試合の雰囲気や全く知らなかったの、試合に出るチャンスを頂いて良い経験だったと思います。

**福元** 試合に出場しませんでした、ベンチから見ていて他の試合と雰囲気が違っていた。「率直にすごいな」と思いました。

**大元** 「一番盛り上がる試合」と聞いていたけど、予想以上に会場のお客さんも多く、「今までやってきた試合とは違う」という違和感の中で、試合した事を覚えています。

——今年のチームカラーは？

**木澤** 昨年からです、「ディフェンスからブレイク」です。ディフェンスを頑張って、速攻。それが早稲田のスタイルだと思います。

**大元** 今年は、特にスモールラインナップで小さい選手ばかりなので、新チームになってからは、ディフェンスと体格作りを意識してやってきました。

——高校時代と練習量で違いはありますか？

**山本** 特にない…です。



池田慶次郎 木澤 義椰 山本 純平

早稲田大学 big bears

**大元** 高校時代の練習がきつくは無かったので（笑）、慶應にきてから、きついんです。

——早稲田より練習量では、勝っていると思いますか？

**大元** 勝っています！

**木澤** ウェイトなら勝っています。

**福元** 練習、何時間？

**木澤** 2時間半くらい。

**福元** 俺ら3時間半だから勝っているわ（笑）。

——相手チームで警戒する選手は？

**山本** 昨年もやられたし、黒木くんです。

**黒木** 怪我明けだったので、まだまだですよ（笑）。

**木澤** 大元です。高校の時からシュートが上手かったし、大学に入学してシュートの精度が上がってきて、注意したいです。

**池田** 僕も、大元君です。マッチアップすると、キレもスピードもあるし。

**大元** 木澤さんと池田くんは、高校時代から知っており意識していました。木澤くんは、別にキレとかも無く、怖さも全然感じなかったの、守りやすかったです（笑）。

一同（笑）

**福元** 僕は、同じポジションの木澤くんです。しっかり抑えたいです。あと、大元にも負けたくない（笑）。

**黒木** 僕は、高校時代からずっと九州の地区決勝戦他で山本さんとやっていたので、山本さんに気をつけたいです。

——東京六大学リーグ戦での試合はどうでしたか？

**木澤** 慶應は、全体的に小さいですかね？あまり昨年と変わってないけど。

**山本** 僕が、福元に付くのは無理（笑）。

**黒木** 「早稲田はデカイ」と言うか、慶應が小さい。あまり変わったところは無いです。

——チーム内での仲はどうですか？

**山本** “イジられて”います（笑）。

**木澤** 山本くんは、イジられキャラです。イジリ甲斐があるというか。

**黒木** あんまり関東を知らないの、みんなでいろ

んな所に行っています。この前は、江の島に行きました。

**大元** 僕は、自主練しているので、どこかに行くとかは。。。。

一同 いやいやいや（笑）。

——相手チームに「ここだけは負けたくない」と言う点はありますか？

**木澤** 「全部負けたくない」ですけど、強いて言うなら盛り上がりです！

**福元** いやいや、慶應もそこは凄いですよ！負けられないです。

——代々木体育館が会場ですが、感想は？

**木澤** やっぱ雰囲気がありますし、緊張します。

**大元** 早慶戦だけ見ると、観客もいっぱいなので興奮します。

——早慶戦はどのような位置づけですか？

**山本** 大きな定期戦ですし、楽しみにしています。

**木澤** 楽しむ試合でもありますし、自分の中では「絶対に勝つ」と思っています。

**池田** あまりイメージが沸いていなかったけど、早慶戦が近づくにつれて先輩たちが「早慶戦はやばい」と言っていた。実際に戦ってみたら、会場もすごく綺麗で、長い歴史を持つ早慶戦で、慶應も早稲田も“負けたくない”と言う闘志むき出しの試合。全てそこに捧げるような試合です。

**大元** 早慶戦は、1年間通して慶應全体で取り組む一大イベントだと思っていて、どの体育会も早慶戦に向けて調整します。早慶戦に勝つ事が、「1年間の目標だ！」と言っても過言ではないほどの意気込みを先輩たちは持っています。それほど大事な試合だと昨年知りました。

**福元** 春シーズンの中で、トーナメントとか新人戦がありますが、それよりも重きを置くという雰囲気が部内であって、すごくモチベーションもあがっているし、みんなで盛り上げてくれるので、それに比べられるような試合をしようと思います。

**黒木** 一大ビッグイベントで、4年生の熱意が“ひしひし”と伝わってくるので、勝ちたいです。



大元 孝文 福元 直人 黒木 亮

慶應義塾大学 UNICORNS

——今年の早慶戦への意気込みは？

**山本** 「絶対に勝ちたい」と言うのもありますが、自分のできる仕事を一生懸命やって、チームに貢献できたら良いです。

**木澤** 試合に出場できるか分からないですが、出場したら自分の仕事をやり、チームに貢献できるように、絶対に勝ちたいと思います。

**池田** 何が何でも、勝ちたいです。

**黒木** 昨年負けているので、今年は勝ちたいです。個人的には、やるべき役割を果たしていこうと思います。

**福元** 僕も勝ちたいですし、個人的には、コートの上で活躍できるように頑張ります。

**大元** 2年目ということで、今年は昨年よりもチームが一致団結しており、モチベーションも高いです。コートに立って、勝利できると良いです。

——最後に、早慶戦とは？

**慶應** 「意地と意地のぶつかりあい！」です。

一同 “祭り”です！



# 早慶

## ランキング対決!



早慶ランキング対決。

選手の中で〇〇なのは誰か? という質問を両大学の選手にアンケート。大学別に、得票数に応じてランキングした。

バスケットに関することから私生活に至るまで、選手の知られざる一面を垣間見ることが出来るこの企画は必見!!

### 1. ダンクがかっこいいのは?

# 早

- 1位 河上宗平 (4年・F・人学科)
- 2位 宮脇隼人 (1年・C・スポ科)
- 3位 山本純平 (2年・F・スポ科)



河上宗平

誰もが一度はリングの真ん中にボールを叩きつけることを夢見る。そんなバスケットボールの花形プレー「ダンクシュート」を一番カッコ良くキメる事ができるのは誰か。1位は当然この人、本学のスーパーエース carry way こと「河上宗平」だ。彼の驚くべき身体能力から繰り出されるスラムダンクはまるでレイアップを放るかのように鮮やかで美麗である。アップ中の河上からは目を離さないで頂きたい。試合中もスキあらば…。河上に次いで2位にランクインしたのは、ルーキー「宮脇隼人」だ。細身の身体からは想像もできないほど豪快なボースハンドダンクである。まるで全盛期のシャックを彷彿とさせるかのような激しさだ。しかし実は…、いやこれ以上は言わないでおこう。とにかくアップ中の宮脇に注目だ。3位は「山本純平」。彼の故郷である「穏やかなジブリの世界」からは想像もつかないほどの激しいダンクを見せてくれる。

この3人、アップ中から目が離せない。

- 1位 本橋祐典 (4年・C・環境情報)
- 2位 大元孝文 (2年・G・環境情報)
- 3位 真木 達 (2年・G・環境情報)



大元孝文

速攻から繰り出されるボースハンドダンクに注目して欲しい! 2位・3位にノミネートされたのは、大元孝文と真木達の2年生コンビ。180cm前後の身長ながらも、ダンクを可能とする抜群のバネを持ち合わせる大元と真木。彼らのダンクを初めて目にした者は、その圧倒的な高さで跳躍力に目を見張ることとなる。そのズバ抜けたアジリティを武器に、人畜無害な外見からは想像出来ない華麗なダンクを披露し、必ずや聖地代々木第2体育館を大歓声で包んでくれることだろう。

# 慶

### 2. 筋肉マンは?

# 早

- 1位 平野哲朗 (3年・F・人科)
- 2位 永井良佳 (2年・G・基幹)
- 3位 松本大輝 (4年・G・商)

本学一ガタイの良い筋肉No.1に選ばれたのは…この男を置いて他にはいない、キン肉マン「平野哲朗」である。毎日ウェイトトレーニングを欠かさない彼は、同じトレーニングルームにいるウェイトリフティング部と同じ重りをつけ、スクワットをしている。しかしなぜか、足首がとても細く、本学の主務兼スーパーモデルジョンミニョンに引けを取らないほどの美脚の持ち主である。そんな平野に次いで票を多く獲得したのは、百獣の王を目指す男「永井良佳」だ。彼は授業中、練習中、入浴中、睡眠中如何なる時でも筋肉について考えている。四年のシーズンを終え、バスケットを引退した暁には、ミスター早稲田コンテストに出ることを夢見る。そんな彼の強靱な背中には兜が浮かぶ。3位にランクインしたのは「松本大輝」。練習着の上からでも浮き出る彼の腹筋はとにかく美しい? 彼の鍛え上げられた体幹からはどんな体制でもシュートが打てるのだ。しかし、就職活動による衰えを隠せない今、あの頃を超えるため更なるウェイトトレーニングに励んでいる。もう一度、ダンクをするために…。



平野哲朗

この3人だけではない。全員の鍛え上げられた体から繰り出されるパワフルで迫力のあるプレーに期待したい。

- 1位 蛭名 涼 (4年・G・法)
- 2位 八島太郎 (3年・学生トレーナー・商)
- 3位 田辺夏彦 (2年・F・経済)



蛭名 涼

本塾の誇る「キン肉マン」たちを紹介しよう。堂々の第1位は、圧倒的な肉体美から、「キャンパスの女子の視線を独り占め」にしている本塾の頼れる主将・蛭名涼だ。1年生時に開花した筋肉ルーレットは、今なお健在。部員からの人望と胸板の厚さは、大学バスケットボール界でも指折りだ。

第2位は、学生トレーナーの八島太郎だ。部員のトレーニングの手伝いをする一方で、自分磨きも怠らなかつた証がその体を見れば一目瞭然だ。惚れ惚れするような曲線、「美ボディ」になっている。そして、何と云っても、「ベンチ裏の応援パフォーマンス」にも注目してほしい! 激戦のランキングで3位に滑り込んだのは、2年生の田辺夏彦だ。一見すると、細身で筋肉ランキングに入るようなタイプではない。しかし、今、巷で流行している「細マッチョ男子」の先駆けとして、若い世代のトレーニングブームを席卷したのが、田辺だ。今後も、田辺の凝縮された肉体美に注目してほしい!

# 慶

# 早

- 1位 鈴木貴大 (4年・F・スポ科)
- 2位 木村晃大 (3年・F・スポ科)
- 3位 玉井勇気 (4年・G・スポ科)

早稲田で一番おもしろいのは誰だ!! 見事1位に輝いたのは昨年の覇者中道啓太の大親友、「鈴木貴大」だ。彼は創造性に溢れ、チームメイトに様々なあだ名を付けている。河上の別名「キャリア」も彼が付けた。2位にランクインしたのは卒業したムードメーカー藤原の後継者、「木村晃大」。彼は先輩後輩問わず、ひたすらにいじりまくる。いじりに関して彼の右に出るものはいない。練習中でも試合中でも面白い「しゃべり」を連発してチームを盛り上げる。倉石監督から笑いを取った時、その瞬間が彼にとっての至福のひと時である。3位は本学の〇〇キング「玉井勇気」。ここでの詳しい説明は差し控えよう。とにかく最強である。



鈴木貴大

- 1位 八島太郎 (3年・学生トレーナー・商)
- 2位 清家 智 (2年・F・経済)
- 3位 石渡悠真 (4年・志木高コーチ・商)



八島太郎

昨年が続いての連覇を果たしたのは、八島太郎。一発芸は得意では無いものの、それを補って余りある「ユーモラスな行動が魅力」の八島。チーム1「騒がしい男」であり、チーム1の「ムードメーカー」は3連覇を虎視眈々と狙っている。その八島を2年連続で押さえることとなった清家 智も、チームの元気印。コートの上では「大きな声」で、コートを離れば「キレのある一発芸」で、チームを盛り上げてくれる。

3位には、志木高コーチの石渡がランクイン。日本一忙しい生活を送っている彼の「キレ芸」は、天下一品。「石渡がキレル!」と、周りには笑いが生まれる。まさに「キレ芸の申し子」だ。

# 慶

### 4. 知的な人は?

**早**

- 1位 根本 研 (3年・G・スポ科)
- 2位 松本大輝 (4年・G・商) & 山田 舜 (4年・F・政経)
- 4位 井上和之 (2年・G・スポ科)



根本 研

文武両道を志す早稲田大学バスケットボール部男子部、その中で一番知的なのは誰か。見事1位に輝いたのはこの男「根本研」だ。国家公務員を目指す彼は、寝る間も惜しんで勉強をしている。そんな、勉強ばかりしている彼についてあだ名は、「ベンキョウメン!!」角度・速さ・強さ、全て計算された彼の華麗なるシュートをお見逃しなく。ベンキョウメンに次いで2位は、「山田舜」と「松本大輝」が同票を獲得してランクイン。イケメンでスタイルも抜群、更に天然という可愛い面まで合わせ持つ知的な山田は、もはやずるい!! 松本、彼の話にはとても説得力がある。話をしているだけで「この人は頭がいい!」と相手に思い込ませる。全てが理にあっていて分かりやすい。本当に頭がいいのかもしれない。何か困った事があったら彼に相談するといいい? ランク外ではあるが、ここでは是非「井上和之」を紹介したい。なんとこの男、本学入試にあたって、特に優秀な成績で合格を果たし、スポーツ科学部の「大隈記念特別奨学金生」として入学してきたのだ。普段の彼を見てると、とてもそんな学生とは思えない。が、この荣誉ある奨学金の名に恥じない学業成績を残してくれると期待する。他にも知的な学生が沢山? 居る? が、ここでは敢えてこの4名にクローズアップしてみた。

**慶**

- 1位 長命祐樹 (4年・F・経済)
- 2位 平山浩樹 (2年・G・法)
- 3位 中村滉平 (3年・F・理工)



長命祐樹

トップは文句無しの投票結果で長命祐樹。一貫校である慶應義塾高出身の長命は、学力が図抜けている訳でもなく、決して寡黙な訳でもない。だが、彼を目にしたものならば、必ず彼は知的であると答えるだろう。それ程までの「雰囲気」を、彼は漂わせている。その雰囲気には違わぬクールなプレーで相手を苦しめる長命のプレーには、是非注目してほしい。

そんな長命に継いで2位となつたのが、平山浩樹。名門校である都立西高校から現役で慶應大学法学部に入学し、その足で体育会バスケット部の門戸を叩いた彼は、バスケットの中でもトップクラスの学力の持ち主だ。その頭脳を生かしたクレバーなIQバスケットで、チームに貢献する。

3位入賞を果たしたのは、中村滉平。彼の属する理工学部は、本塾にある多種多様な学部の中でも、特に厳しい学部だ。その影響で、慶應の体育会全土を見ても理工学部生の数は少ない。そんな学部で日々勉学に励みながら体育会の活動を続ける中村は、文字通り「文武両道」な男だと言えるだろう。

### 5. 天然ボケは?

**早**

- 1位 山田 舜 (4年・F・政経)
- 2位 中島 渉 (3年・F・スポ科)
- 3位 二宮弘憲 (4年・C・スポ科)



山田 舜

1位はもちろんこの男、「山田舜」だ。チームミーティングの際、他の全員が理解している内容を1人理解できずに突拍子もない事を発言する。彼のモデルのようなスタイルと甘いマスクから、たまに発せられるボケボケ加減には女性だけでなく男性でもキュンとしてしまう。「ギャップ萌え」である。2位にランクインしたのは「わたびゅー」こと「中島渉」。彼のことは、これまでの二年間ずっと一緒にいる同期ですら理解できない。常にびゅーびゅー一言っている早稲田一の「不思議ちゃん」だ。続いて3位にランクインしたのは「二宮弘憲」。彼は天然というより天然記念物の大ゴリラなのだ。それがランクインした理由である。

**慶**

- 1位 山崎 哲 (2年・C・環境情報)
- 2位 中村滉平 (3年・F・理工)
- 3位 平石健斗 (4年・G・環境情報)



山崎 哲

チーム随一の「のんびり屋」である山崎 哲が、王者に輝いた。秋田が生んだ秀才は、自他共に認める「天然ボケ男」であり、チームの貴重な癒しキャラだ。

2位は、中村 滉平。184cm89kgの巨体でありながら、『プーさん』の愛称と共にチームではイジられる役である。

3位の平石 健斗は、「いい意味」で空気を読まない発言でその場を和ませてくれる存在。「ちょっとやそつとの悪い空気」では、彼によって即座に打ち壊されてしまうことだろう。

### 6. 奇抜なヘアースタイルは?

**早**

- 1位 二宮弘憲 (4年・C・スポ科)
- 2位 國枝健太 (2年・G・社)
- 3位 平野哲朗 (3年・F・人科)



二宮弘憲

奇抜なヘアースタイルの保持者? そんなどうでもいいランキングの1位に輝いたのは、本学のキングコング「二宮弘憲」。まるで野生のゴリラのように自由奔放にのびきった毛髪には言葉が出ない。毎日ひどい寝癖をつけてくる二宮は、面白い部門2位に輝く木村に「今日も三点倒立して寝たんですか?」といじられている。そんな時、二宮はボソッと一言「髪とか気にしねえーしい...」。いや、気にしろっ! もう大学四年生だぞ。もはや彼は人間の域を超越し、本物のゴリラに到達している?

2位にランクインしたのは「國枝健太」。「春らしくしてください」そう言い放って完成したのがあのヘアースタイルである。春一番の突風になびかされた素敵なヘアースタイル???だ。

3位は「平野哲郎」。チリチリ。ブロッコリー。スチールウール...。(笑)

**慶**

- 1位 本橋祐典 (4年・C・環境情報)
- 2位 伊藤良太 (3年・G・環境情報)
- 3位 大元孝文 (2年・G・環境情報)



本橋祐典

本塾のバスケットボール部とは無縁に思えるこのランキングは、チームメイトに「髪の将来を不安視される大黒柱が1位に!」現在は、スポーツマンらしい坊主頭だが...。入学時から着実に後退を続けているので、今後は頭部のケアも早急に行わなければならない。「ゴール下での土俵際」と「生え際」、「二つの際」で今年も本橋は粘りを見せることだろう。代々木のコートを明るくする彼に注目してほしい!

2位の伊藤 良太と3位の大元 孝文は、同時に紹介させて頂こう。実は先日、「イメチェンに失敗」した「洛南」コンビ。学年も上がり、新しい出会いに期待をし、イメチェンを図ったが、見事に失敗となった。「揃って仲良く」名を連ねることとなった「息ピッタリ」の2人のプレーには、髪型と共に本戦でも注目して貰いたいところだ。この2人が早稲田のガード陣を全てにおいて圧倒することだろう。

### 7. 努力家は?

**早**

- 1位 平野哲朗 (3年・F・人科)
- 2位 武津祐太郎 (3年・G・文構)
- 3位 永井良佳 (2年・G・基幹)



平野哲朗

スポーツに限らず何事にも努力は大事。自主練の盛んな本学で見事1位に輝いたのはこの男、「平野哲郎」だ! 平野について2位に選ばれたのは、平野の相棒「武津祐太郎」。とにかくこの2人は半端ない! 誰よりも早く体育館に来てシューティングをし、練習が終わった後はどんなに身体がキツくても欠かさずウェイトトレーニング、そして更にシューティングをするのだ。そんな2人に次いで3位に選ばれたのは「本学の武井荘」こと「永井良佳」だ。彼は毎日欠かさず練習後、トレーニングルームに2時間は籠り、バスケットボールプレイヤーとは思えないほどのトレーニングに汗を流す。いざれ百獣の王になるのが彼の目標である。

今回選ばれたのはこの3人だが、全員が努力を惜しまない。そして、それは必ず報われる。そう信じている。そんな毎日の努力の結果は、日々の練習、試合中のひとつひとつのプレーの中に現れる。そんな瞬間をお見逃しなく!

**慶**

- 1位 矢嶋 瞭 (4年・F・環境情報)
- 2位 田中貴啓 (4年・F・環境情報)
- 3位 中島一樹 (2年・G・総合政策)



矢嶋 瞭

「誰」も「が努力を怠らない本塾の中でも、特に努力家な3人を紹介しよう。

1位は、矢嶋 瞭。オフの日も「厳しくイジめ抜いてきた」その体は、下級生の時とは比べ物にならない程強靱になった。抜群のスキルと力強さを併せ持った本塾のエースが、慶早戦においても、存分に力強さを発揮してくれているだろう。

その矢嶋と高校時代から高め合ってきた田中 貴啓が、2位にランクイン。副将として、まずは練習からチームを引っ張っている。「飲み」の席においても常に限界に挑み続けた結果、彼の右に出るものはいなくなった。正に『努力の人』である。

3位入賞の中島 一樹も、2人に引けを取らない。遅くまで体育館に残り練習を積む彼の姿こそ、「努力家」という言葉に相応しいと言えるだろう。努力の賜物である『定評のあるディフェンス』をぜひ見てほしい。